

精神科での経験を持たずに精神科急性期病棟への配属となった看護師の思い

-精神科を希望し入職した中堅看護師への支援のために-



医療法人社団 五稜会病院
○後藤小百里・鈴木大輔・星野美栄子・吉野賀寿美・中島公博



【はじめに】

- ・ 単科の精神科病院であるA病院では身体科の看護経験の後、精神科に希望し入職する中堅看護師が増えている。
- ・ それらの中堅看護師には、疲労の蓄積や業務に困難さを感じる様子が見られ、今後の教育支援体制の整備に向けて、その経験内容について詳しく知る必要があると考えた。
- ・ そこで今回、精神科急性期病棟に配属になった、他科から転科した中堅看護師の、精神科看護の困難さ、やりがいについて明らかにする研究を行ったので発表したい。

なお、倫理委員会にて承諾を得て研究を実施した。

【研究方法】

- 研究デザイン: 質的記述的研究
- 対象: 身体科から精神科単科へ転向した中堅看護師(実務経験5年以上15年未満)で急性期治療病棟配属での勤務1年以上2年未満の者 3名
- 期間: 平成27年X月からX+4月
- データの収集方法
インタビューガイドを作成し、それに基づいてプレテストを行い妥当性を検証後、半構成的な面接を行った。
面接内容
(1)精神科看護へ転向した理由
(2)以前働いていた科と比べ精神科看護で感じた困難や苦勞
(3)以前働いていた科と比べ精神科で得られた看護の喜び
(4)精神看護の経験によって人生にもたらした豊かさ、生きがい
- データの分析方法
ボイスレコーダーで録音し、録音した面談内容を逐語録に起こし、対象者が感じた 困難や苦勞、看護の喜び、人生にもたらした豊かさ、生きがいに関連した文章を抽出しデータ化した。それを類似したものの同士に分類しカテゴリ化した。



【結果・1】 精神科看護へ転向した理由

カテゴリー	コード
コミュニケーションを大切にしたい	<ul style="list-style-type: none"> ・心のケアを行いたい ・患者とじっくり関わりたい ・コミュニケーションを実践したい
計画的に転向	<ul style="list-style-type: none"> ・全身管理を学んでからと考えていた ・以前から精神科への興味を持っていた ・人生経験を積み、人間的な深さが出てからの精神科転向と考えた
精神的サポートを学ぶため	身体化での看護にも活かすため
ワークライフバランスの条件に合った	ワークライフバランスの条件に合った



【結果・2】 精神科看護で感じた困難や苦勞

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
不確かさに伴う困難や不安	アセスメントやケア	<ul style="list-style-type: none"> ・症状としてケアするものかの判断 ・先輩の看護師のアセスメントの多様性
	ケアからの充実感	回復過程の実感が持てない
	自己主張	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思う看護ができない時 ・経験不足を思う事からの遠慮
	精神科に慣れていない	<ul style="list-style-type: none"> ・精神症状に慣れていない ・患者とのコミュニケーションがとれない時 ・予測が立てられない
考えや経験の差異による戸惑い	環境に伴う違い	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの環境とのアセスメントの違い ・セルフケアに関するアセスメント
	イメージしていた精神科との違い	<ul style="list-style-type: none"> ・予想以上の処置や介助の多さ ・高齢化
	患者との目標共有が困難	<ul style="list-style-type: none"> ・治療に患者の同意が得られない時 ・共感するけど寄り添えない時



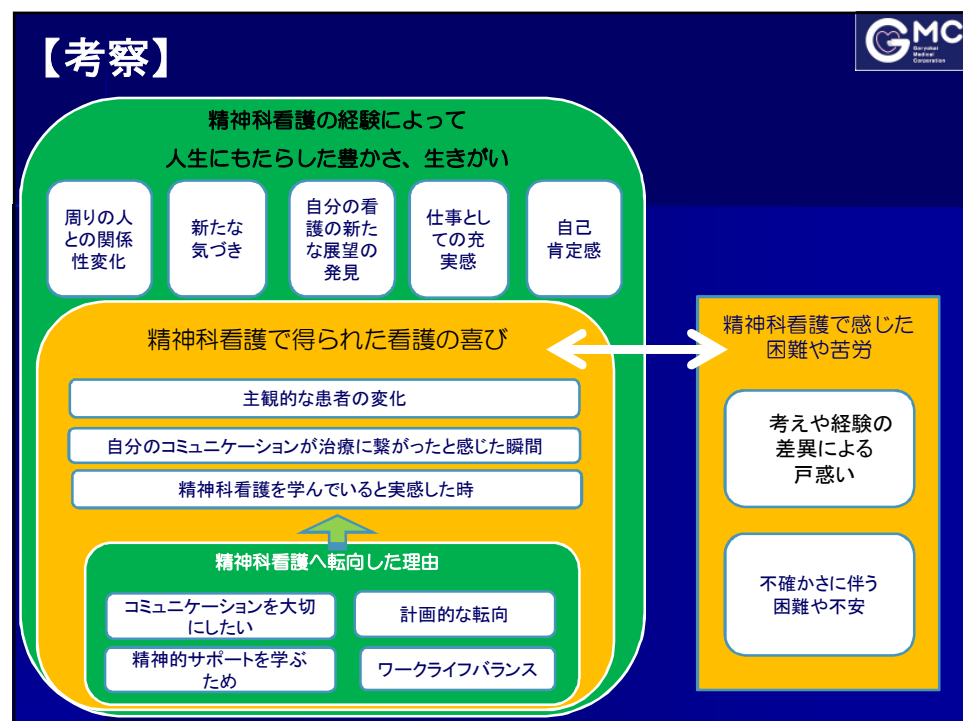
【結果・3】 精神科看護で得られた看護の喜び

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
自分のコミュニケーションが治療に繋がったと感じた瞬間	主観的な患者の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・話をきくことが薬の代わりになり、治療に繋がった時 ・コミュニケーションを取りながら患者の反応が見えたとき
		<ul style="list-style-type: none"> ・看護師が感じる患者の回復の実感 ・患者に寄り添えていると思えた時 ・存在を認めてくれた思い
精神看護を学んでいると実感した時	患者との目標共有が困難	<ul style="list-style-type: none"> ・プライマリーとしての存在を認識してくれた時 ・患者と一緒に目標の共有 ・具体的に患者に沿った看護
		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書では学べない具体的な関わりを先輩を看護モデルで学べる ・患者に沿った丁寧な説明をしている



【結果・4】精神科看護の経験によって人生にもたらした豊かさ、生きがい

カテゴリー	サブカテゴリー	2次コード	1次コード
自分の看護の新たな展望の発見		新たな目標の発見	・自分の精神看護を見つけたい、提供したい ・学びたい気持ちが強まった
仕事としての充実感	チームナーシングの充実とストレンクス	・スタッフとのケアの達成の共有 ・患者のストレンクスに注目した看護を意識するようになった ・チームの中で個性を生かすこと学んだ	・1人で多様にこなしたいという目標から、看護師の個の特性を生かすことに気づく ・スタッフ間で患者の回復を共有 ・患者の強みを発見し伸ばす
新たな気づき	・人生において仕事の大切さ ・自身の精神衛生の大切さ	・仕事によって人生が豊かになっているという気づき ・自身の精神衛生の大切さを考えられるようになった	・仕事と捉えたやりがいから人生の生きがいに繋がっている ・精神疾患に触れることでの気づき
周りの人との関係性変化		生活の中で他者への関わり方について考えられるようになった	・精神看護の影響がプライベートに良い影響 ・子育てへの影響
自己実現		自分の夢に近づいた	自分の夢に近づいた



【結論】

- 1、精神科への転科への目的が果たされたと感じた時に看護で喜びも感じている
- 2、不確かさや経験との差異から困難や苦勞を感じている
- 3、経験の浅さを補い、不確かさを少しでも保障していく関わりがより良い指導に繋がる可能性がある

【研究の限界】
今回の研究では、対象者が3名であることから一般化するには限界がある。